

科目名	プログラミング環境	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	河原 和好		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-33-B-2-450006	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的	<p>コンピュータにおける「環境」とは、コンピュータやネットワークを構成するハードウェアとソフトウェアの組み合わせや、それぞれの状態や設定を指す。「プログラミング環境」とは、それらのうち、プログラミング（プログラム作成やアプリケーション開発）を行なうために必要な基本ソフトウェア（OS）や、エディタ・コンパイラなどのソフトウェアが提供されている環境のことである。</p> <p>本講義では、コンピュータによりプログラムを作成する際に必要なソフトウェアに関する知識や技術を学習する。具体的には、基本ソフトウェアの一つであるUNIX環境の使用方法を学習し、それをを用いたプログラミングに関する基礎知識を学習する。</p> <p>これにより、企業などにおける情報システムを運用するサーバや、アプリケーションの開発環境、組み込みシステム等で使用されているUnixの基本的な扱い方を学び活用できるようになることを目的とする。</p>				
学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・UNIX環境を理解し活用できるようになる (リアクションペーパー15%、理解度チェック15%) ・UNIX環境におけるプログラミングに関する基礎知識を学習し活用できるようになる (リアクションペーパー15%、理解度チェック15%、期末レポート40%) 				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	プログラミング環境について、UNIXについて、UNIXの基本操作
第2回	UNIXの基本操作、シェル、ファイルシステム、コマンド
第3回	シェル、ファイルシステム、コマンド

第4回	ワイルドカード、リダイレクト
第5回	テキストファイルを扱うコマンド、パイプ
第6回	テキストエディタ
第7回	正規表現
第8回	ユーザ権限とアクセス権、他のOSとの連携、GUI環境
第9回	UNIXにおけるプログラミング環境、シェルスクリプト
第10回	シェルスクリプト：作成・実行方法、入出力
第11回	シェルスクリプト：分岐1
第12回	シェルスクリプト：分岐2
第13回	シェルスクリプト：反復

第14回	シェルスクリプト：関数
第15回	まとめ
第16回	期末レポート提出

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間（事前配布資料の予習）
【復習】時間・内容	2時間（授業内容の復習）

成績評価	
評価基準・方法	授業時に提出するリアクションペーパーの評価点の合計点30%、授業時に提示する理解度チェックの評価点の合計点30%、期末レポートの評価点40%の配分で評価する
フィードバック方法	リアクションペーパーと理解度チェックについては毎回採点して解説する。 期末レポートについてはポータルにて解答を提示し、講評を加える。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク
教科書/参考書	資料を配付する。参考資料は講義中に紹介する。
受講上の留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・受講学生の理解度により講義の順番（日程）や分量を調整することがある ・理解度が高まるので、プログラミングに関する演習や講義科目を履修済みであり、プログラミングについて理解していることが望ましい ・「数学基礎」の履修を指導された学生は、この単位を取得していることが望ましい ・継続した学習が必要となるため、欠席した場合は各自で資料を取り寄せて学習すること、分からない場合は教員に質問すること、が必要となる
JABEE	関連する学習・教育到達目標：G